

科目名 (英)	就職講座 Career Development	年次	1	実務経験	担当	岩本理絵・大迫暁子・南本和幸
		授業形態	演習			
		時間数	30			
学科・専攻	美容師科	単位	1		開講区分 曜日・時間	前期 水曜日1.2.3.4限
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	美容業界の仕事、職種内容の理解を深め、職業選択を決める。また社会人に必要な身構え、気構え、心構えを身につける。					
到達目標	プロの職業人を目指すにあたり、美容業界に必要な基礎知識・業界情報を理解し、職業選択を決定する。 笑顔であいさつができるようになっている。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C(2.0)、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style(6回目の授業で使用)			事前事後 学習と その内容	スケジュールを毎回確認していくので、必ず手帳に予定を書くことを癖づけてください。スケジュール管理も社会人基礎力に欠かせないものになります。	
教材	スケジュール帳・メモ帳・筆記用具					
特記事項	必要事項はメモをとること					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	クラスを知る	日常行動スコアシートで自分の特性を知る。SNSの使い方。 1年後の目標。(マンドラチャート)
2	クラス目標をクラス会議で決める。	1年後の自分、クラスを創造し目標を決め、またクラスルールを自分たちで決める【クラス会議】 自己分析(ジョハリの窓)
3	自己分析	自分史を作成し、自分の強み弱みを知る。(ジョハリの窓)
4	他者理解/職業研究	美容業の職種(スタイリスト、ヘアメイク、ブライダル)を理解する。(6月中に専攻授業決定)
5	コミュニケーション力向上	グループワークを通して、コミュニケーションを身に付ける
6	自己分析/プロ職業人を目指す	Hand-book of Life Styleを使用し、学校生活・日常生活・社会生活について学ぶ。 一般常識・マナー
7	中間試験	①自己PRを作成。750文字～800文字でまとめる。
8	グループワーク/クラス会議	グループワークを通して、自分の意見を伝えること・他者の意見を吸収することを学ぶ。
9	グループワーク	グループワークを通して、自分の意見を伝えること・他者の意見を吸収することを学ぶ。
10	職業研究	就職活動に向けて外部の方より就職活動について学ぶ。
11	夏休みにあたっての重要事項	長期休暇を使って、準備しておきたい項目を理解する。電話対応、デザインシート
12	コミュニケーション力向上	グループワークを通して、コミュニケーションを身に付ける
13	自己分析	グループワークを通じて自己分析をする。 他己紹介
14	定期試験	自己PR750文字～800文字。
15	定期試験振り返り	わからない分野の洗い出しをし、必要な知識の整理をする。整理をすることで職業選択の決定につなげる。

科目名 (英)	文化論 Theory of cultural	年次	1	実務経験	担当	青柳光子
		授業形態	講義			
		時間数	30			
学科・専攻	美容師科	単位	1	有	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日・1～4限
講師紹介	スタイルとして海外実務経験の中で実際に海外文化を学びました。そして日本文化の素晴らしさは海外でも関心が高いこともわかりました。ファッションには歴史があり、現代ファッションに大きく関係しています。日本独特のファッション文化の成り立ちも楽しくお伝えします。					
目的 科目概要	文化論を学ぶことで、新しいデザインのヒントを見つけると共に流行を発信できる力を身につける。					
到達目標	ファッションの歴史を理解を深めることで、ファッション全体の視野を広げることができるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C(2.0)、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 提出課題					
教科書	日本理容美容教育センター「文化論」			事前事後 学習と その内容	教科書を基本に時代背景、ファッション文化（髪型・化粧・服装）年表を作成することで、各時代の特徴を見つけることができる。	
教材	PowerPoint					
特記事項	講義及び揭示資料について、著作権の資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	「文化論とは」 授業説明（到達目標・評価基準・定期試験・授業進行・授業ルール）
2	第4章ファッション文化史 西洋編 第1～4節	①エジプト・②ギリシャローマ③ゲルマン④中世ヨーロッパの時代背景を理解する。 髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
3	第4章ファッション文化史 西洋編 第5～9節	⑤近世(16世紀)⑥近世(17世紀)⑦近世(18世紀)⑧(18世紀末～19世紀初め) ⑨近代(19世紀) 時代背景を理解する。 髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
4	第4章ファッション文化史 西洋編 第10～12節	⑩現代(1910年代～1920年代)⑪現代(1930年代～1940年代) ⑫現代(1940年代後半～1950年代)時代背景を理解する。 髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
5	第4章ファッション文化史 西洋編 第13～16節	⑬現代(1960年代)⑭現代(1970年代)⑮現代(1980年代) ⑯現代(1990年代～2010年)時代背景を理解する。 髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
6	第1章「総論」 第2章「日本の理容業・美容業の歴史」	第1章「総論」 第2章「日本の理容業・美容業の歴史」について学び知識を深める。
7	ファッション文化史 西洋編 総合まとめⅠ	前期 中間試験
8	ファッション文化史 西洋編 総合まとめⅡ	ファッション文化史 西洋編 総合まとめ
9	第3章ファッション文化史 日本編 第1～3節	①縄文・弥生・古墳時代②古代(飛鳥・奈良・平安) ③中世(平安末・鎌倉・室町・戦国) 時代背景を理解する。 髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
10	第3章ファッション文化史 日本編 第4～5節	近世④(戦国末・安土桃山)⑤(江戸)時代背景を理解する。 髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
11	第3章ファッション文化史 日本編 第6節	近代 ⑥明治⑦大正⑧昭和20年までの時代背景を理解する。 髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
12	第3章ファッション文化史 日本編 第7節	⑨1945～1950時代 ⑩1960～1970年代の時代背景を理解する。 髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
13	第3章ファッション文化史 日本編 第8節	⑪1980～1990年代 ⑫2000～2010年代の時代背景を理解する。 髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
14	ファッション文化史 日本編 総合まとめⅠ	前期 期末試験
15	ファッション文化史 日本編 総合まとめⅡ	ファッション文化史 日本編 総合まとめ

科目名 (英)	保健 Health	年次	1	実務経験	担当	青柳光子
		授業形態	講義			
		時間数	30			
学科・専攻	美容師科	単位	1	有	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日・1～4限
講師紹介	ヴィダル・サスーンの名言「ヘアカットはお客をイスに座らせてチョキチョキすることじゃない。その骨格を研究することなんだ。」美容と保健は深い繋がりがあります。実際、サロンで保健の知識は重要でお客様に信頼と安心を提供できるように美容師の目線で「保健」を楽しくお伝えします。					
目的 科目概要	美容と保健の繋がりを理解することで、幅広い接客と安全に施術できる環境状態を判断することが、学生にとって技術提供をする前準備として重要な事だと知る。					
到達目標	美容と保健の重要性を深く理解することで、お客様に寄り添った施術構成を考えられるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C(2.0)、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 提出課題					
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 「保健」			事前事後 学習と その内容	①教科書の使い方とオリジナルノート作成に力をいれる。 ②美容と保健の繋がりを理解する。	
教材	PowerPoint・カルタ					
特記事項	講義及び掲示資料について、著作権の資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	「なぜ？保健」 授業説明(到達目標・評価基準・授業進行・授業ルール・オリジナルノート)
2	第1編 人体の構造及び機能 第1章 頭部・顔部・頭部の体表解剖学	(1項) 人体各部の名称 (2項) 頭頸部の体表解剖学
3	第2章 骨格器系	(1項) 骨の種類と構造 (2項)骨の連結 (3項) 骨格器系とそのはたらき
4	第3章 筋系	(1項) 筋の種類と特徴 (2項) 主な骨格筋とそのはたらき (3項) 表情筋と表情運動
5	第4章 神経系	(1項) 神経系の成り立ち (2項) 中枢神経系とそのはたらき (3項) 末梢神経系とそのはたらき
6	第5章 感覚器系	(1項) 視覚 (2項) 聴覚 (3項) 平衡感覚 (4項) 味覚 (5項) 臭覚 (6項) 皮膚感覚
7	まとめ I	前期 中間試験
8	総合まとめ I	・第1章～第5章 (オリジナルノート作成) ・理解が不十分なところを見つけ復習する。
9	第6章 血液と免疫系	(1項) 血液のあらまし (2項) 免疫のあらまし (3項) アレルギー
10	第7章 循環器系	(1項) 心臓のあらまし (2項) 血液循環の仕組み (3項) 血液の循環経路 (4項) リンパ管の仕組みとはたらき
11	第8章 呼吸器系	(1項) 呼吸器系のあらま (2項) 気道 (3項) 肺の仕組みとガス交換 (4項) 呼吸運動
12	第9章 消化器系	(1項) 消化器系のあらまし (2項) 消化管のお仕組み (3項) 消化管のはたらき (4項) 消化管と物質代謝
13	まとめ II	・第6章～第9章 (オリジナルノート作成) ・理解が不十分なところを見つけ復習する。
14	総合まとめまとめ II	前期 期末試験
15	前期 総合まとめ	第1章～第9章 (オリジナルノート完成)

科目名 (英)	美容技術理論 Beauty technical theory	年次	1	実務経験	担当	加藤亜希
		授業形態	講義			
		時間数	30			
学科・専攻	美容師科	単位	1	有	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日・1～4限
講師紹介	現役美容師の講師が、国家試験筆記対策に向けた講義を行います。実際の実務にリンクできるような提案をめざします。					
目的 科目概要	.国家試験対策(筆記)として、教科書の内容と、練習問題を解けるようにすること。美容師として、業界の必要な知識を、学び、実際のサロンワークなど、経験値と結びつける練習をしていく。					
到達目標	基本の名称や、手順、目的を理解し覚え、最終的に、国家試験(筆記)の練習問題を解くことができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □実技試験 □ 作品 □提出課題					
教科書	美容技術理論Ⅰ(日本理容美容教育センター)			事前事後 学習と その内容	名札・持ち物などの忘れ物がないように、整理整頓して授業を始める準備をしましょう。	
教材	配布用プリント、筆記用具、タブレット適宜使用					
特記事項	教科書、名札、筆記用具は必ず毎回持ってきてください					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	序章	授業目的・授業ルール/美容技術理論を学ぶにあたって
2	1章 美容用具	美容技術における用具
3	1章 美容用具	美容技術における用具
4	2章 シャンプーイング	総論/シャンプーの手順
5	2章 シャンプーイング	リンス、コンディショナートリートメント・スカルプトリートメント
6	3章 ヘアデザイン	美容とデザイン
7	中間試験	第1回～第6回の内容
8	4章 ヘアカットイング	シザーズとレザーの扱い方/作業姿勢
9	4章 ヘアカットイング	カット技法
10	5章パーマメントウエーブ	パーマ剤の分類
11	5章パーマメントウエーブ	パーマの手順と注意事項
12	7章 ヘアカラーリング	概論/ヘアカラーの種類
13	7章 ヘアカラーリング	色の基本/毛髪レベルとアンダートーン
14	定期試験	第1回～第13回の内容
15	7章 ヘアカラーリング	技術手順

科目名 (英)	美容実習 (カットブロー) Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	竹内有美・本城美実・足立祐希
		授業形態	実習			
		時間数	60			
学科・専攻	美容師科	単位	2	有	開講区分 曜日・時間	前期 木・金曜日 1～4限
講師紹介	美容師として長きに渡り経験のある講師が、カットとブローの基礎的な理論・技術をわかりやすく指導する。					
目的 科目概要	目的:カットとブローの基礎的な理論・技術を習得する。概要:カットのベーシックスタイルを学び、スタイルに合わせたブローで仕上げ、時間内に完成することができる。					
到達目標	ベーシックスタイルの理論・技術を理解でき、正しい姿勢とシザー開閉を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ☐ 筆記試験 ☒ 実技試験 ☐ 作品 ☐ 提出課題					
教科書	美容実習Ⅰ美容技術理論Ⅰ	事前事後 学習と その内容	シザー開閉の練習を行い、取り扱いに慣れる。			
教材	マニュアル・動画					
特記事項	欠席した場合は、マニュアル・動画で学習してから授業に臨む					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	用具の使い方・セッティングについて ウイッグ①	用具の確認、使い方、セッティングについて・専門用語の説明・コームとシザーワーク
2	ワンレングスカット・ブロー ウイッグ①	準備7分・シザー開閉・ワンレングスカット・ハンドブロー
3	ワンレングスカット・ブロー ウイッグ①	準備7分・シザー開閉・ワンレングスカット・ハーフラウンドブラシでブロー
4	ワンレングスカット・ブロー ウイッグ①	準備7分・シザー開閉・ブロー強化
5	ワンレングスカット・ブロー ウイッグ②	準備7分・シザー開閉・ワンレングスカット・ブロー(60分)・中間試験について
6	ワンレングスカット・ブロー ウイッグ②	準備7分。シザー開閉・ワンレングスカット・ブロー(60分)
7	中間試験 ウイッグ③	ワンレングスカット・ブロー(60分)
8	振り返り・アレンジ ウイッグ③	評価を踏まえて課題の確認・準備7分・前髪カット・テクスチュアカット・アレンジ
9	前下がりのボブ ウイッグ③	準備7分・前下がりのボブカット・ブロー
10	前下がりのグラデーション ウイッグ③	準備7分・前下がりのグラデーションカット・ブロー・セニングシザーの使い方
11	前下がりのグラデーション ウイッグ③	準備7分・前下がりのグラデーションカット・ブロー・セニングシザーの使い方
12	前下がりのグラデーション ウイッグ①	準備7分・前下がりのグラデーションカット・ブロー・セニングシザーの使い方
13	前下がりのグラデーション ウイッグ①	準備7分・前下がりのグラデーションカット・ブロー・セニングシザーの使い方
14	定期試験 ウイッグ②	前下がりのグラデーションカット・ブロー(60分)
15	振り返り・アレンジ ウイッグ②	評価を踏まえて課題の確認・準備7分・レイヤーカット・テクスチュアカット・アレンジ

科目名 (英)	美容実習 (ワインディング) Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	小坏亜矢子 竹内有美 宮城裕美 本城美実
		授業形態	実習			
		時間数	120	有	開講区分	前期
学科・専攻	美容師科	単位	4		曜日・時間	火曜日1・2限・木、金曜日1～4限
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が、美容師の国家試験に合格するための技術・知識・心得を習得する授業を行う					
目的 科目概要	目的:国家試験科目であるワインディングの基礎技術を習得し、国家試験合格に向けて技術を向上させていく。パーマをかける理論を習得する。 概要:コツコツと練習し、基礎力を定着させる。					
到達目標	基礎技術を身につけ、完璧なワインディング作品を模倣する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C(2.0)、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■実技試験 □ 作品 □提出課題					
教科書	美容技術理論・美容実習			事前事後 学習と その内容	手順と作り方等を覚えてから授業に参加する事。理解不足、技術不足は授業外で自習すること。	
教材	WD道具一式・タブレット(teamsの資料・動画)					
特記事項	欠席をした場合は、復習してから授業に臨む。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	準備の確認 国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・5ブロッキング4分 ・下巻き1本2分 ・ステムの角度と方向の強化
2	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・5ブロッキング3分 ・下巻き9本18分 ・上巻き1本2分 ・ステムの角度と方向の強化 ※宿題⇒上下巻き方
3	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・5ブロッキング3分 ・センター30分 ・ステムの角度と方向の強化 ※巻き方チェック
4	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・5ブロッキング3分 ・センター30分 ・ステムの角度と方向の強化 ※巻き方チェック
5	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・5ブロッキング3分 ・センター30分 ・ステムの角度と方向の強化 ※巻き方チェック ※中間試験採点項目について
6	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・5ブロッキング3分 ・センター30分 ・ステムの角度と方向の強化 ※巻き方チェック
7	中間試験	・5ブロッキング3分 ・センター30分 ・巻き方 ・評価と振り返り
8	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・3ブロッキング3分 ・センター25分 ・フロント、サイドブロッキング、サイド4本の強化
9	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・3ブロッキング2分 ・センター20分 ・右面30分 ・スライスの取り方を完璧に覚える
10	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・3ブロッキング2分 ・センター15分 ・右面25分 ・左面20分 ・スライスの取り方チェックテストの告知
11	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・3ブロッキング2分 ・センター15分 ・左右45分 ※スライス線の取り方チェックテスト
12	国家試験スタイル	・全頭54分(ブロッキング込み) ・作品の確認 ※定期試験採点項目について
13	国家試験スタイル	・全頭54分(ブロッキング込み) ・作品の確認 ※定期試験採点項目について
14	定期試験	・全頭54分の試験 ・採点・評価・振り返り ・パーマかけの準備物について
15	パーマかけ	・オールウェーブのウィッグにパーマをかける

科目名 (英)	美容実習 (アシスタントテクニック) Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	我妻優子 本城美実 岩本理恵 南本和幸 大迫暁子
		授業形態	実習			
		時間数	60			
学科・専攻	美容師科	単位	2	有	開講区分 曜日・時間	前期 水・木曜日1～4限
講師紹介	サロン勤務店長を務め、VidalSassonAcademyで技術を習得その後フリーランス。映像、MV、ブライダル、イベントの活動してる講師					
目的 科目概要	ヘアセットとカラーリングを学びアシスタントテクニックの基礎を習得する					
到達目標	ヘアセット、カラーリングの基礎技術を習得する					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C(2.0)、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■実技試験 □ 作品 □提出課題					
教科書	美容技術理論1、美容実習			事前事後 学習と その内容	美容実習Iのヘアセット（ブロー）を参考に、授業中練習。今後人頭（ビューティーサロン）施術出来るよう練習。カラーリングは美容技術理論を理解して技術にあたって欲しい	
教材						
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	【コテ巻き】内巻き、外巻き	コテで内巻き、外巻きを学ぶ
2	【コテ巻き】なみ巻き、ストレート	コテでなみ巻き、ウェーブの髪をストレートにする
3	【アレンジ】ねじり留め、一束結び	サイドの髪をピンニング、後ろを結びポニーテールを作る
4	【アレンジ】編み込み	表編み、裏編み、片編みを学ぶ
5	【ブロー】ワングス(カット)、ブロー	ウィックをワンレングスにカット、ハーフラウンドブラシで内巻きのブローを学ぶ
6	【ブロー】ハーフラウンドブラシ内巻き	ハーフラウンドブラシで左右ブラシの使い方を学ぶ
7	【ブロー】ハーフラウンドブラシ、ロールブラシ内巻き	ハーフラウンドブラシ、ロールブラシの使い方を学ぶ
8	【ブロー】ローレイヤー(カット)ハーフラウンドブラシ	ローレイヤーにカットし、ハーフラウンドブラシでレイヤーを流し方を学ぶ
9	【ブロー】ハーフラウンドブラシ、ロールブラシ	ハーフラウンドブラシ、ロールブラシでレイヤーのブローを学ぶ
10	【カラーリング】ウィービング	ホイルを使用、ウィービングを学ぶ
11	【カラーリング】バレイヤーージュ	バレイヤーージュのやり方を学ぶ
12	【カラーリング】スライシング	ホイルを使用、スライシングを学ぶ
13	【カラーリング】全頭カラーリング	ブリーチで全頭をムラなくきれいにブリーチする
14	【カラーリング】デザインシート、仕込み	金髪ウィックにカット、カラーリングをデザインし作成する
15	【カラーリング】カラーリング作品制作	14回で使用したウィックを完成、発表

科目名 (英)	美容総合技術 (パーソナルカラー検定) Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	高橋名都紀
		授業形態	演習			
		時間数	30	有	開講区分	前期
学科・専攻	美容師科	単位	1		曜日・時間	月曜日・1～4限
講師紹介	色彩心理に興味を持ったことをきっかけに、色彩に関する資格を多数取得(色彩検定1級、パーソナルカラー検定1級等)。色彩に関わるお仕事がしたい!と思い、個人サロンを立ち上げ、パーソナルカラー診断・骨格診断・顔タイプ診断をしています。色彩に関する知識だけでなく、みなさんの色感やスキルアップ、ファッション&メイクセンスアップにつながるような実践的なお話やアドバイスをいたします!					
目的 科目概要	目的: 似合う色を活用するポイントを学ぶことで、TPOに合わせた自分の魅せ方(自分ブランディングの仕方)を学ぶ。 概要: パーソナルカラーの探し方や取り入れ方の基礎、そのもとになる色彩学の基礎を習得する。 自分自身の似合う色を実習の中で学んでいく。					
到達目標	自分には客観的にどのような色が似合うかを学び、「自分ブランディング」ができるようになる事で自分に自信を持ち、自己表現の幅を広げること。 パーソナルカラー検定3級(2023年度夏季)の合格を目指す。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □実技試験 □ 作品 □提出課題					
教科書	色彩活用パーソナルカラー3級公式テキスト			事前事後 学習と その内容	授業の進行に合わせて、必要である場合はホームワークとして課題、復習、問題集、プリントの課題を実施いたします。	
教材	問題集、新配色カード199b、PCCストーン別色相環					
特記事項	【カラーワーク】がある日は、必ず「はさみ、のり」を持参してください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション パーソナルカラーとP.I.Iについて	授業のオリエンテーション パーソナルカラー(似合う色)を知ることのメリットと概要を理解する。【カラーワーク】
2	色の三属性(色相、明度、彩度)	色彩の基本である色の三属性(色相、明度、彩度)を学ぶ。
3	トーン(色の調子)	トーンの見え方と仕組みを理解する。 身の周りの色や指定された色をトーンでとらえられるように、慣れる。【カラーワーク】
4	パーソナルカラーの色分け 4シーズンのカラーパレット	パーソナルカラーの色分け 4シーズンの色の特徴を見分け、色分類ができるように、色感を磨く。
5	色素の見分け方 色素チェック	生まれながらに持った色素(肌、髪、眼の色と質感)の特徴の見分け方のポイントと、色素と似合う色の関係性を学ぶ。自分はどんな色素を持っていいるのかを確認する。
6	似合う色の取り入れ方	4シーズンの似合う色の取り入れ方(ファッション、メイク、アクセサリ、柄、素材) 似合わない色の見え方も確認する。
7	中間試験 色名	20問/20点満点 選択・記述問題 系統色名と慣用色名の色の名前の使い分けのポイントを学ぶ。
8	反射・吸収 色と光	色はなぜ見えるのか?色と光の関係性を学ぶ。
9	模擬試験	検定に備えて過去問題を解き、苦手なところを確認する。
10	模擬試験解説 検定合格のポイント	間違えやすい問題、検定に出やすいポイント、覚えるところを確認する。
11	パーソナルカラー検定	60分 89問 マークシート 合格ライン80%
12	ドレーピング実習①	ドレーピングによるパーソナルカラー診断の実習 グループに分かれ、ドレープを比較しながら、お互いの似合う色を確認する。
13	ドレーピング実習②	ドレーピングによるパーソナルカラー診断の実習 グループに分かれ、ドレープを比較しながら、お互いの似合う色を確認する。
14	期末試験 実習のまとめ	25問/50点満点 選択・記述問題 ドレーピング実習のまとめ
15	授業のまとめ	授業を振り返り、「自分らしさ」について考える。

科目名 (英)	美容総合技術 (おもてなしマスター検定) Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	塚本博美
		授業形態	演習			
		時間数	30			
学科・専攻	美容師科1年生	単位	1	有	開講区分	前期
					曜日・時間	月曜日・1～4限
講師紹介	企業研修マナー講師・産業カウンセラー・サービス接客インストラクター・おもてなしマスター講師が就職現場に基づいた「おもてなし」が出来るよう細かく指導します。「おもてなしマスター検定」に必ず合格させます。その為には授業を休まないことが必須条件です。教本1冊を15回の授業内で行います。後半は過去の試験問題を解きながら試験形式に慣れるようにします。顧客満足を考え、日頃から何気ない立ち居振る舞いや笑顔、癖なども注意を促して行きます。(例えば配布物の受け渡しなども接客マナーに沿ったやり方を細かく指導し現場で使えるようにしていきます。					
目的 科目概要	目的:おもてなしマスター検定合格 要:職場の人間関係に於いて必要なコミュニケーション技術を身につけ、おもてなし検定合格を目指します。					概
到達目標	おもてなしマスター検定資格試験に合格する。合格の為に必要な「おもてなしの心」「おもてなしの型」「スキル」を身につけ実践することが出来る。今まで知らなかった接客敬語をマスターし使えるようになる。(小テスト)					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □実技試験 □ 作品 □提出課題					
教科書	「おもてなしマスター」資格検定教本			事前事後 学習と その内容	日々自分がお客様として店頭に立った際に「おもてなし」を意識する感覚を磨く。お客様の立場で満足・不満足の心境を知る。どんなサービスがお客様に喜ばれるのかを考える。好印象を持って貰えるように日頃から立ち居振る舞いに注意する。	
教材	プリント(補助教材)					
特記事項	集中力を高めるために毎授業、接客敬語をテストし敬語に慣れるようにします。心理テストを行い自分を理解します。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・おもてなし検定について	将来どのようなお客様と接しても「おもてなしのプロ」として接客出来るスキルを身につける為の大切な授業であることの意識付け。
2	ニコニコトレーニング・おもてなし体験について	お客様対応に於いて「笑顔の重要性」を学びます。おもてなしは日本が世界に誇る素晴らしい文化であること。人生で成功するための鍵であることを指導。
3	おもてなしの心について理解する	「利他の心」「一期一会」「期待を超える」お客様の心理を知る。
4	おもてなしの型とは	おもてなしの基本となる「5つの型」「スキル」を理解する。
5	傾聴スキル「聞く」と「聴く」の違い	サービス業に於いて必要な「傾聴スキル」を学び、アクティブリスニングのコツをトレーニングします。傾聴スキルの自己評価で自分の癖を知ります。
6	タイムルール・時間管理	お客様をおもてなしするときに注意すべき「時間管理」を学ぶ。
7	中間試験	1回目から6回目を振り返り中間試験を実施。
8	事前調査・環境設定	お客様に快適と安心を与える空間とはどんな空間でどんな要素が必要なのかを知る。事前調査で知り得たお客様の属性や個性を反映させた環境作りを考える。
9	場面演出	場面演出を理解する。変化に対応出来る力を身につける。特にイレギュラーな出来事への対応を考える。
10	イベント演出スキル	即断即決の柔軟な対応でお客様を不快にさせない。アサーティブな自己表現を身につける。
11	変化対応・アサーション	お客様からクレームをいただいた際の処理解決に必要なアサーションを学ぶ。
12	ホジティブシンキング・ストレスマネジメント・エゴグラム	変化対応におけるポジティブシンキング・ストレスマネジメントの必要性を理解する。お客様を理解する手がかりの一つとしてエゴグラム活用法を知る。自分自身の心の癖を知る。
13	なぜなぜシンキング・KJ法・コーチング	「なりたい姿」に人を導くため、自分を導くためのビジネススキルを学び今後のおもてなしに活かす。
14	過去問題	過去に行ったおもてなし検定問題を解きながら、陥りやすい点に気をつけて全員合格を目指す。
15	おもてなし検定受験日	授業の振り返り。おもてなし検定実施。

科目名 (英)	就職講座 Career Development	年次	1	実務経験	担当	岩本理絵・大迫暁子・南本和幸
		授業形態	演習			
		時間数	30			
学科・専攻	美容師科	単位	1		開講区分 曜日・時間	後期 金曜日1～4限
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	美容の仕事で、どのような知識・技術・接客が必要であるかを知る。また業界ではどのような人材が必要とされるかを知る。					
到達目標	美容の仕事を深く理解し、どのような知識・技術が必要で、業界はどのような人物が必要とされているか理解する。 希望職種内定のために、必要な就職マナーが備わっている。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	Hand-book of Life Style	事前事後 学習と その内容	就職活動や面接に向けて、人前でも自信を持って自己PR出来るようになる。その為に、練習を重ねて早期に自分の強みと弱点を把握し対策出来るようになる。			
教材	iPad					
特記事項	必要なことはメモをとる					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	就職活動に向けて・業界研究(企業来校)	就職フェアに向けて事前に業界研究を行う。様々なサロンの特徴や強みを知ることで業界の知識を増やす。また、自分に合った就職先を見つけられるようになる。
2	就職活動に向けて	就職フェアの振り返りをする。就職活動をする上で自分が必要とする条件が何かを把握する。サロン見学・サロン説明会に必要なマナー・ルールを覚える。
3	チームマネジメントを知る	ビューティサロンに向けての準備や話し合いを行う。クラスの仲間と一つの物を創り上げるためのチームマネジメントに必要な要素を学ぶ。
4	就職活動準備①	就職スケジュールを把握し、履歴書の重要性を理解する。 また就職活動でのマナーを学び、自己紹介が出来るようになる。
5	就職活動準備②	履歴書作成のポイントを知る。送付状・お礼状の書き方を覚える。 業界研究をし、志望する就職先の情報を集める。
6	就職活動準備③	実際に履歴書を作成する。送付状・お礼状の書き方の復習をする。
7	中間試験	就職活動でのマナー、その際の学校でのルールについて(10点) 送付状の書き方(10点)
8	面接準備①(企業来校)	履歴書のポイント 面接の動き・流れを覚える。(話し方・声の大きさ・目線・立ち方・座り方など)※動画参照
9	面接準備②	模擬面接の実施。サロン・トータルビューティサロン・企業の人事の方に来校していただく。そこで、自己PRといくつかの質疑応答をしていただく。人前で堂々と話せるようになる。
10	面接準備③	模擬面接の振り返り。業界からいただいたフィードバックを確認し、自分の強みと弱点を把握する。 今後の面接練習で実践していきたいことを発表する。冬休み中に履歴書の完成を目指す。
11	面接準備④	封筒の書き方・履歴書送り方(順番を理解する)
12	就職活動準備④・面接準備⑤	履歴書最終チェック。(完成しているか) 面接練習:4～5名1チーム、面接官役:2名、受験者役:2～3名
13	就職活動準備⑥	面接のポイント・質疑応答。
14	就職活動準備⑦	面接練習:4～5名1チーム、面接官役:2名、受験者役:2～3名
15	定期試験	面接。担任→面接官役。集団面接:4～5名。内容:自己紹介と自己PR 入退室の流れ(10点)、所作(10点)、姿勢(10点)、声の大きさ(10点)、目線(10点)

科目名 (英)	保健 Health	年次	1	実務経験	担当	青柳光子
		授業形態	講義			
		時間数	30			
学科・専攻	美容師科	単位	1	有	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日・1～4限
講師紹介	ヴィダル・サスーンの名言「ヘアカットはお客様をイスに座らせてチョキチョキすることじゃない。その骨格を研究することなんだ。」美容と保健は深い繋がりがあります。実際にサロンで保健の知識が重要でお客様に信頼と安心提供できるように美容師目線で「保健」を楽しくお伝えします。					
目的 科目概要	保健が美容にとっていかに重要な役割があるかを教科書を通じて理解する。また、日常生活に役立つ知識を身につける。					
到達目標	単元ごとの重要ポイントを理解できるようになり、美容と結びつく説明ができるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C(2.0)、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □実技試験 □ 作品 □提出課題					
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 「保健」			事前事後 学習と その内容	①教科書の使い方とオリジナルノート作成に力をいれる。 ②美容と保健の繋がりを理解する。	
教材	PowerPoint・カルタ					
特記事項	講義及び掲示資料について、著作権の資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	第2編 皮膚科学 第1章 皮膚の構造	(1項) 皮膚の表面 (2項) 皮膚の断面 (3項) 表皮
2	第1章 皮膚の構造	(5項) 真皮 (6項) 皮下組織と皮下脂肪 (7項) 皮膚の部位差
3	第2章 皮膚付属器官の構造	(1項) 毛 (2項) 脂腺(皮脂腺) (3項) 汗腺
4	第3章 皮膚の循環器系と神経系	(1項) 皮膚の血管 (2項) 皮膚のリンパ管 (3項) 皮膚の神経
5	第4章 皮膚と皮膚の付属器官の生理機能	(1項) 対外保護作用 (2項) 体温調節作用 (3項) 知覚作用と皮膚反射 (4項) 分泌排泄作用 (5項) 呼吸作用 (6項) 吸収作用
6	第4章 皮膚と皮膚の付属器官の生理機能	(7項)貯蔵作用 (8項) 免疫・解毒・排除作用 (9項) 再生作用 (10項) 毛のはたらき (11項) 爪のはたらき
7	まとめ I	後期 中間試験
8	総合まとめ I	第1章～第4章(オリジナルノート作成) 理解が不十分なところを見つけ復習する。
9	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健	(1項) 皮膚と全身状態 (2項) 皮膚と精神 (3項) 皮膚と栄養 (4項) 皮膚と嗜好品 (5項) 皮膚と体内病変
10	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健	(6項) 皮膚の水分と脂の状態 (7項) 皮膚の付属器官とホルモン (8項) 皮膚と保護と手入れ (9項) 毛と保護と手入れ (10項) 爪の保護と手入れ (11項) 子どものおしゃれによる皮膚トラブル
11	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	(1項) 皮膚の異常と病態 (2項) 湿疹・皮膚炎 (3項) 蕁麻疹 (4項) 薬疹 (5項) 口唇の疾患 (6項) 温熱・寒冷による皮膚疾患
12	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	(7項) 角化異常による皮膚疾患 (8項) 色素異常による皮膚疾患 (9項) 血管腫 (10項) 脂腺母斑 (11項) 下肢静脈瘤 (12項) 分泌異常による皮膚疾患
13	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	(13項) 化膿菌による皮膚疾患 (14項) ウイルスによる皮膚疾患 (15項) 真菌による皮膚疾患 (16項) 衛生害虫による皮膚疾患 (17項) 感染症の皮膚疾患予防 (18項) 毛と爪の疾患 (19項) 皮膚の腫瘍
14	まとめ II	後期 期末試験試験
15	総合まとめ II	第5章～第6章(オリジナルノート作成) 理解が不十分なところを見つけ復習する。

科目名 (英)	美容技術理論 Beauty technical theory	年次	1	実務経験	担当	加藤亜希
		授業形態	講義			
		時間数	30			
学科・専攻	美容師科	単位	1	有	開講区分	後期
					曜日・時間	月曜日・1～4限
講師紹介	現役美容師の講師が、国家試験筆記対策に向けた講義を行います。実際の実務にリンクできるような提案をめざします。					
目的 科目概要	.国家試験対策(筆記)として、教科書の内容と、練習問題を解けるようにすること。美容師として、業界の必要な知識を、学び、実際のサロンワークなど、経験値と結びつける練習をしていく。					
到達目標	基本の名称や、手順、目的を理解し覚え、最終的に、国家試験(筆記)の練習問題を解くことができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □実技試験 □ 作品 □提出課題					
教科書	美容技術理論Ⅰ(日本理容美容教育センター)			事前事後 学習と その内容	名札・持ち物などの忘れ物がないように、整理整頓して授業を始める準備をしましょう。	
教材	配布用プリント、チームズなど適宜使用					
特記事項	教科書、配布物用のファイル、蛍光ペン、筆記用具は必須です。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	12章 着付けの理論と技術	着付け1.2.3.4/.17.18(着物のいろいろ、礼装、花嫁)
2	12章 着付けの理論と技術	着付け5.6.7.8(帯、小物、名称)
3	12章 着付けの理論と技術	着付け(着付けにおける注意事項)
4	11章 日本髪	日本髪1.2.3.4(P113～)/頭の名称振り返り
5	11章 日本髪	日本髪5.6.7.
6	12章 着付けの理論と技術	花嫁着付け
7	中間試験	1回～6回までの内容で試験を行う
8	8章 エステティック	皮膚の生理と構造
9	8章 エステティック	フェイシャルケア技術
10	9章 ネイル	ネイル技術概論・爪の構造・爪のカット形状
11	9章 ネイル	ネイル技術と公衆衛生・ネイルケア
12	10章 メイクアップ	用具の種類と消毒方法
13	10章 メイクアップ	メイクアップ/まつ毛エクステンション
14	定期試験	8回～13回の内容で試験を行う
15	振り返り	定期試験振り返り

科目名 (英)	美容実習 (カットブロー) Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	竹内有美
		授業形態	実習			
		時間数	60	有	開講区分	後期
学科・専攻	美容師科	単位	2		曜日・時間	月・水曜日・1～4限
講師紹介	美容師として長きにわたり経験のある講師が、カットとブローの基礎的な理論・技術をわかりやすく指導する。					
目的 科目概要	目的:カットとブローの基礎的な理論・技術を習得する。概要:カットのベーシックスタイルを学び、スタイルな合わせたぶろーで仕上げ、時間内に完成することができる。					
到達目標	ベーシックスタイルの理論・技術を理解でき、応用となる国家試験第一課題スタイルを習得する。正しい姿勢とシザー開閉を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■実技試験 □ 作品 □提出課題					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ			事前事後 学習と その内容	シザー開閉の練習を行い、取り扱いに慣れる。	
教材	マニュアル・動画					
特記事項	欠席した場合は、マニュアル・動画で学習してから授業に臨む					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	メンズカット ウイッグ①	ショートマッシュスタイル
2	メンズカット ウイッグ②	ショートレイヤースタイル
3	メンズカット ウイッグ③	刈り上げスタイル
4	ローレイヤー ウイッグ④	ローレイヤーカット・ロールブラシを使ってブロー
5	ローレイヤー ウイッグ④	ローレイヤーカット・ロールブラシを使ってブロー
6	ローレイヤー ウイッグ⑤	ローレイヤーカット・ロールブラシを使ってブロー
7	中間試験 ウイッグ⑥	ローレイヤーカット・ブロー(60分)
8	振り返り・セიმレングカット ウイッグ⑥	評価を踏まえて課題の確認 セიმレングカットの手順を覚える
9	セიმレングカット ウイッグ⑥	セიმレングカットの手順を覚える
10	セიმレングカット ウイッグ⑥	セიმレングカットの手順を覚える
11	定期試験① ウイッグ④	セიმレングカット
12	振り返り ウイッグ④	評価を踏まえて課題の確認 セिमレングカット
13	定期試験② ウイッグ⑤	セიმレングカット
14	振り返り・マッシュウルフカット ウイッグ⑤	評価を踏まえて課題の確認 マッシュウルフスタイル
15	フリースタイル ウイッグ④⑤	フリースタイル 2スタイルを仕上げる

科目名 (英)	美容実習 (ワインディング) Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	竹内有美 宮城裕美 足立祐季 小坏亜矢子 本城美実
		授業形態	実習			
		時間数	60			
学科・専攻	美容師科	単位	2	有	開講区分	後期
					曜日・時間	月曜日1～4限
講師紹介	長年美容師、美容学校講師経験をしている講師が美容師の国家試験に必要な技術・知識・心得を習得する授業を行う					
目的 科目概要	目的:国家試験の目標タイムに近づけていく 概要:正しい巻き方でスピードアップ・作品の確認・修正も学んでいく					
到達目標	美容師科の国家試験に受かるための技術・知識を習得できる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ☐ 筆記試験 ☒ 実技試験 ☐ 作品 ☐ 提出課題					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ	事前事後 学習と その内容	ロッドとペーパーでの巻き込みを素早く正確にできるようにしておく とよい			
教材	WD用具一式					
特記事項	同じことの繰り返しになるが目標を持ち取り組んでいく					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	前期の振り返り	後期授業の進め方について ブロックごとにタイムを計り修正しながら仕上げる。全頭タイム
2	国家試験スタイル	ブロックごと、全頭タイムを計る。センター・サイドの強化
3	国家試験スタイル	ブロックごと、全頭タイムを計る。フロントの強化
4	国家試験スタイル	ブロックごと、全頭タイムを計る。バックサイドの強化
5	中間試験について	全頭40分 中間試験の採点項目を理解し作品を確認する
6	中間試験の流れ	練習 全頭40分
7	中間試験	国家試験スタイル 全頭40分
8	中間試験 振り返り・返却	中間試験でできなかった箇所、部分の確認、練習
9	国家試験スタイル	ブロックごと、全頭タイムを計る
10	定期試験①について	定期試験の採点項目を理解し作品を確認する
11	定期試験①	練習 全頭30分
12	定期試験②について	定期試験できていなかった箇所、部分の確認、練習
13	定期試験②	定期試験の採点項目を理解し作品を確認する
14	定期試験① 振り返り・返却	練習 全頭30分
15	定期試験② 振り返り・返却	定期試験できていなかった箇所、部分の確認、練習

科目名 (英)	美容実習 (オールウェーブ・セッティング) Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	小坏亜矢子 足立祐希
		授業形態	実習			
		時間数	60			
学科・専攻	美容師科	単位	2	有	開講区分 曜日・時間	後期 月・水曜日／1～4限
講師紹介	美容師経験を生かし、国家試験課題の技術をわかりやすく指導し、個々の技術力や理解力を把握し、個々に合った指導を行う。学ぶ事の苦手意識が克服できるように努め、主体性が発揮出来る授業展開を目指す。					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験の基礎知識、基礎技術を学び、国家試験に合格する力をつける。 概要:国家試験科目であるオールウェーブセッティング、衛生を学ぶ。手順や技術等を学びながら、国家試験の採点項目に沿って、技術向上を目指す。					
到達目標	美容師国家試験に合格するための技術・知識・心構えを習得する。4段目リフトカールまでをタイム内でマニュアル通り忠実に作る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C(2.0)、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■実技試験 □ 作品 □提出課題					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ			事前事後 学習と その内容	マニュアルや動画を参照し、多数の技法を理解し、習得できるよう復習する。	
教材	タブレット(teamsのマニュアル、動画)					
特記事項	マニュアル / 動画にたくさん細かい説明等を書きこむ。理解できなかった事は、その日に必ず質問し、理解しないままにしない。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	・教材について ・1段目馬蹄形を作る	・用具の説明、セッティング・ローションのつけ方・コームの使い方・マニュアル配布 ・ハーフウェーブの作り方 ・馬蹄形を作る
2	・1段目馬蹄形の復習 ・1段目スカルプチュアカールを作る	・正しい馬蹄形を作る＊立ち位置、指の向きにきをつける ・スカルプチュアカールの作り方、スライス取り、ピンングを覚える(8分)
3	・スカルプチュアカールをtタイムで作る ・2段目半円シェーブとリッジを作る	・スカルプチュアカール6分 ・2段目かき出し、半円シェーブ、リッジの作り方を覚える
4	・2段目リッジまでの復習	・スカルプチュアカール6分 ・馬蹄形～2段目リッジまで15分 ・正確な半円とリッジを作る
5	・中間試験の採点項目について ・3段目分け取りと3段目左右ウェーブ、リッジを作る	・中間試験採点項目を把握する ・3段目左右ウェーブとリッジを、幅や分け取り方を注意して作る
6	・中間試験の練習 ・3段目左右リッジまで	・2段目リッジまで15分 / 3段目の半円、分け取り、左右ウェーブ5分 ・馬蹄形～3段目左右ウェーブまで20分
7	・中間試験	試験内容:馬蹄形～3段目左右ウェーブまで 20分 採点・評価・振り返り
8	・中間試験までの復習 ・3段目スカルプチュアカールを作る ・カールスペースを習得する	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 ・馬蹄形～3段目スカルプチュアカールまで25分 ・セニングを入れる
9	・左右7段ウェーブを作る ・11回目の筆記試験について	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ30分(3段目スカルプチュアカール込み) ・セニングを入れる
10	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ ・13回目の実技試験について	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ30分(3段目スカルプチュアカール込み)
11	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ ・7段目ウェーブまでの期末試験(筆記20点分) ・4段目リフトカールを作る	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ30分(3段目スカルプチュアカール込み) ・4段目リフトカールの作り方を覚える
12	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ ・4段目リフトカールを作る	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ30分(3段目スカルプチュアカール込み) ・4段目リフトカールのクオリティーアップ(5分)★位置・大きさ・ステム強化
13	・7段ウェーブ、リフトカールまでの期末試験(30点)	試験内容:4段目リフトカールまで35分、30点満点 採点、評価、振り返り
14	・4段目リフトカールまでのクオリティアップ	・期末試験で減点された技術向上を図る
15	・4段目リフトカールまでのクオリティアップ ・2年次の内容について	・期末試験で減点された技術向上を図る

科目名 (英)	美容実習 (アシスタントテクニック) Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	宮城裕美 本城美実 小山萌 南本和幸
		授業形態	実習			
		時間数	60			
学科・専攻	美容師科	単位	2	有	開講区分	後期
					曜日・時間	水曜日1～4限
講師紹介	長年美容師、美容学校講師経験をしている講師が美容師の国家試験に必要な技術・知識・心得を習得する授業を行う					
目的 科目概要	基本技術の向上を図り、実在するサロンを想定した技術と接客マナーを学ぶ。					
到達目標	12月に行うビューティーサロンに向けサロンでの個々の動きを把握し習得する。 学んだ技術を応用し、サロンワークを体験する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C(2.0)、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■実技試験 □ 作品 □提出課題					
教科書	美容実習1 美容技術理論1			事前事後 学習と その内容	前期の復習をしっかりと行い、個人でのレベルを向上し、クラス全体が同じくらいの技術力になるように個人練習ではなく、数人で練習を行う。	
教材	シャンプー用具一式					
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	サロンワークについて	後期授業の進め方について クラスでどんなサロンにするか話し合う
2	サロンワーク	サロンワークの練習 フィードバック
3	サロンワーク	サロンワークの練習 フィードバック
4	サロンワーク	サロンワークの練習 フィードバック
5	中間試験について	サロンワークの練習 フィードバック
6	サロンワーク	サロンワークの練習 フィードバック
7	中間試験	サロンワークの練習 フィードバック
8	中間試験 振り返り・返却	サロンワークの練習
9	サロンワーク	サロンワークの練習 フィードバック
10	定期試験①について	サロンワークの練習 フィードバック
11	定期試験①	サロンワークの練習 フィードバック
12	定期試験① 振り返り・返却	サロンワークの練習
13	定期試験②について	サロンワークの練習 フィードバック
14	定期試験②	サロンワークの練習 フィードバック
15	定期試験② 振り返り・返却	サロンワークの練習

科目名 (英)	美容総合技術 Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	遠藤智緒里 荒谷健太 足立祐季 大和田一樹 福島裕司 武田郁乃 岩本理絵 我妻優子 大迫暁子 南本和幸
		授業形態	演習			
		時間数	180			
学科・コース	美容師科	単位	6	有	開講区分	後期
					曜日・時間	火1・2／木1～4限
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	業界で活躍するプロから最新の技術と現場力を学ぶ。					
到達目標	常に、お客様、モデルを想定しての接客・応用技術を身に付ける					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ☐ 筆記試験 ☒ 実技試験 ☒ 作品					
教科書				事前事後 学習と その内容		
教材						
特記事項	講義及び掲示物について、著作権のある資料も使うことがある為 写真撮影及び録音録画を禁止する					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	美容全般の技術を学ぶ①	ヘア、メイク、ブライダル幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
2	美容全般の技術を学ぶ②	ヘア、メイク、ブライダル幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
3	美容全般の技術を学ぶ③	ヘア、メイク、ブライダル幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
4	美容全般の技術を学ぶ④	ヘア、メイク、ブライダル幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
5	美容全般の技術を学ぶ⑤	ヘア、メイク、ブライダル幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
6	美容全般の技術を学ぶ⑥	ヘア、メイク、ブライダル幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
7	プレゼンテーション①	テーマに合わせた作品のプレゼンテーションを実施する
8	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
9	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
10	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
11	美容全般の技術を学ぶ②	8～9回の授業振り返り、課題の克服する
12	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
13	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
14	美容全般の技術を学ぶ③	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
15	美容全般の技術を学ぶ③	プロから評価をしていただく